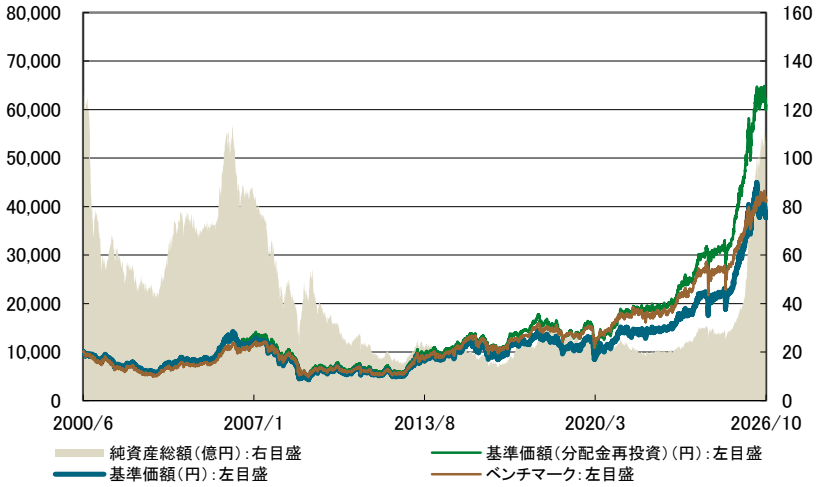
キャッシュフロー経営評価オープン　≪愛称：選球眼≫

追加型投信／国内／株式

当初設定日　：　2000年6月30日
作成基準日　：　2026年10月30日

基準価額の推移



※　データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
※　基準価額（分配金再投資）は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
※　基準価額は、信託報酬控除後です。
※　ベンチマークは、TOPIX（東証株価指数）（配当込み）です。当初設定日を10,000として指数化しています。

基準価額、純資産総額

	当月末	前月末比
基準価額	37,665 円	－ 2,316 円
純資産総額	108.75 億円	＋ 0.07 億円

期間別騰落率

	ファンド	ベンチマーク	差
1カ月	−5.79%	−3.48%	−2.31%
3カ月	−2.59%	−0.04%	−2.55%
6カ月	6.43%	7.54%	−1.12%
1年	35.38%	21.71%	13.67%
3年	147.10%	88.79%	58.31%
設定来	499.27%	310.00%	189.27%

※　ファンドの騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。

TOPIX（東証株価指数）とは、株式会社JPX総研が算出、公表する指数で、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した指数です。TOPIX（東証株価指数）（配当込み）（以下、「配当込みTOPIX」という。）の指数値及び配当込みTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など配当込みTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及び配当込みTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、配当込みTOPIXの指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。

分配の推移（1万口当たり、税引前）

設定来分配金合計額　　9,350　円

決算期	2024年7月	2025年6月	2026年6月
分配金	950　円	200　円	4,150　円

※　運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

個別銘柄が基準価額の変動に与えた影響度（月間、概算）

プラス要因銘柄	寄与額	マイナス要因銘柄	寄与額
リクルートホールディングス	＋ 227 円	ソフトバンクグループ	－ 313 円
三越伊勢丹ホールディングス	＋ 57 円	ローム	－ 254 円
本田技研工業	＋ 55 円	パナソニック　ホールディングス	－ 241 円
ソニーグループ	＋ 49 円	みずほフィナンシャルグループ	－ 210 円
東京海上ホールディングス	＋ 47 円	十六フィナンシャルグループ	－ 148 円

＜本資料のお取扱いにおけるご留意点＞
●当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
●ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
●投資信託は値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクを伴います。）に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
●投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
●当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
●当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により運用方針等が変更される場合があります。

三井住友トラスト・アセットマネジメント

キャッシュフロー経営評価オープン　≪愛称：選球眼≫

追加型投信／国内／株式

当初設定日　：　2000年6月30日
作成基準日　：　2026年10月30日

資産の状況

※ 当ページの数値はマザーファンドベースです。

資産内容

株式	97.57%
株式先物取引	0.00%
短期金融資産等	2.43%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10業種

	業種	ファンド	ベンチマーク
1	電気機器	24.54%	20.06%
2	銀行業	10.27%	11.96%
3	卸売業	7.06%	7.68%
4	保険業	5.47%	3.82%
5	情報・通信業	5.06%	6.36%
6	輸送用機器	4.90%	5.16%
7	サービス業	4.52%	4.86%
8	機械	4.21%	5.28%
9	電気・ガス業	4.11%	1.24%
10	建設業	3.76%	2.05%

※ 対現物株式構成比です。

組入上位10銘柄

	銘柄	業種	比率
1	リクルートホールディングス	サービス業	4.41%
2	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	3.88%
3	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.41%
4	ソニーグループ	電気機器	3.17%
5	豊田通商	卸売業	3.15%
6	NTT	情報・通信業	3.03%
7	三菱電機	電気機器	2.53%
8	本田技研工業	輸送用機器	2.48%
9	アドバンテスト	電気機器	2.46%
10	パナソニック　ホールディングス	電気機器	2.41%

※ 対純資産総額比です。　　組入銘柄数 ：　68

キャッシュフロー経営評価オープン　≪愛称：選球眼≫

追加型投信／国内／株式

当初設定日　：　2000年6月30日
作成基準日　：　2026年10月30日

ファンドマネージャーのコメント

【市場動向】
国内株式市場は下落しました。月上旬は、米ハイテク企業の好決算や、米雇用統計の下振れを受けて米早期追加利上げ観測が後退したことなどを背景に米国株式が上昇したことを好感し、上昇しました。その後、中東情勢の緊迫化やAI（人工知能）向けクラウドサービス企業の信用不安を機にAI投資の持続性や収益性への懸念などが高まり、AI・半導体関連銘柄を中心に下落しました。下旬には、米AI企業の株式公開に向けた動きやアジアの半導体関連企業の好決算を受けて上昇する場面もありましたが、月末には米大手ハイテク企業の決算を受けたAIへの過剰投資懸念などから下落して終えました。

【運用実績】
買付銘柄は、業績の推移と比べて株価が割安と判断したキーエンス、マクセルなどです。
売付銘柄は、業績に対する株価の割安感が薄れた小糸製作所、リクルートホールディングスなどです。

〔月間パフォーマンス〕
当月末の基準価額は前月末比で下落しました。基準価額騰落率はベンチマークを下回りました。
業種構成面では、その他製品の組入比率を高めにしていたことや、銀行業の組入比率を低めにしていたことなどがプラスに寄与した一方、医薬品の組入比率を低めにしていたことや、非鉄金属の組入比率を高めにしていたことなどがマイナスに影響しました。
個別銘柄では、リクルートホールディングス、三越伊勢丹ホールディングスなどがプラスに寄与した一方、ソフトバンクグループ、ロームなどがマイナスに影響しました。

【市場の見通し】
日本経済は、賃上げによる消費拡大と企業の設備投資の増加に加え、インフレ定着による収益改善が進むことで、企業業績の拡大が見込まれます。日本株式市場は、中東情勢悪化を背景とした原油価格上昇による影響を注視する必要がありますが、中長期的には経済環境を背景とした上昇基調が続くと考えられます。

【今後の運用方針】
ファンドの特色である「割安+業績モメンタム」の観点から、ポートフォリオ構築を行います。キャッシュフローおよび収益・資産で評価した企業価値対比で割安かつ株価再評価のきっかけを有する銘柄に投資することで、中長期的なリターン創出を狙います。当面は、AI（人工知能）市場の中長期的な成長の中で競争優位を有する銘柄や、構造改革や株主還元の強化が期待される銘柄に注目します。

キャッシュフロー経営評価オープン　≪愛称：選球眼≫

追加型投信／国内／株式

当初設定日　：　2000年6月30日
作成基準日　：　2026年10月30日

ファンドの特色

1. わが国の取引所上場株式に投資し、ファミリーファンド方式で運用を行います。
2. 中期的に、ベンチマークであるTOPIX（東証株価指数）（配当込み）を上回る投資成果を目指します。
3. キャッシュフロー・バリュエーションモデルによる割安度評価※1と、アナリスト業績予想による業績モメンタム評価※2に基づく銘柄選択を行います。

※1 キャッシュフロー・バリュエーションモデルから算出されたフェアバリュー（妥当価値）と、現在の株価水準の乖離度合いによって割安度を評価します。

※2 アナリストの予測に基づく向こう2期のキャッシュフロー又は連結営業利益の変化率の評価のことをいいます。

投資リスク

《基準価額の変動要因》

- ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。
  従って、**投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。**
- **信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者の皆様に帰属します。**
- **投資信託は預貯金と異なります。**

【株価変動リスク】
株価は、発行者の業績、経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。株価が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

【信用リスク】
有価証券の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金等をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、又はそれが予想される場合には、有価証券の価格は下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。

※ 基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

《その他の留意点》

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
  分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益及び評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
  投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ファンドは、大量の換金申込が発生し短期間で換金代金を手当てする必要が生じた場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。
  これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止、取り消しとなる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

キャッシュフロー経営評価オープン　≪愛称：選球眼≫

追加型投信／国内／株式

当初設定日　：　2000年6月30日
作成基準日　：　2026年10月30日

お申込みメモ

購　入　単　位・・・販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

購　入　価　額・・・購入申込受付日の基準価額とします。
（基準価額は1万口当たりで表示しています。）

換　金　単　位・・・販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

換　金　価　額・・・換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額とします。

換　金　代　金・・・原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目からお支払いします。

申込締切時間・・・原則として、販売会社の営業日の午後3時半までにお申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日のお申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にお問い合わせください。

換　金　制　限・・・ファンドの規模及び商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の換金には受付時間及び金額の制限を行う場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

購入・換金申込受付の中止及び取消し・・・取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、及びすでに受け付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消す場合があります。

信　託　期　間・・・無期限（2000年6月30日設定）

繰　上　償　還・・・次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了（繰上償還）させることができます。
・受益権の口数が5億口を下回ることとなった場合
・ファンドを償還することが受益者のために有利であると認める場合
・やむを得ない事情が発生した場合

決　算　日・・・毎年6月29日（休業日の場合は翌営業日）です。

収　益　分　配・・・年1回、毎決算時に原則として収益分配を行う方針です。

課　税　関　係・・・課税上は株式投資信託として取り扱われます。
公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。
ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
なお、配当控除の適用が可能です。益金不算入制度の適用はありません。

ファンドの費用

《投資者が直接的に負担する費用》

■ 購入時手数料
購入申込受付日の基準価額に**3.3%（税抜3.0%）を上限**として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

■ 信託財産留保額
換金申込受付日の基準価額に**0.3%**の率を乗じて得た額を、換金時にご負担いただきます。

《投資者が信託財産で間接的に負担する費用》

■ 運用管理費用（信託報酬）
運用管理費用（信託報酬）の総額は、以下の通りです。
純資産総額に対して**年率1.65%（税抜1.5%）**を乗じて得た額

■ その他の費用・手数料
有価証券の売買・保管、信託事務に係る諸費用等をその都度、監査費用等を日々、ファンドが負担します。これらの費用は、運用状況等により変動するなどの理由により、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。

※ 詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）の「お申込みメモ」「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

キャッシュフロー経営評価オープン　≪愛称：選球眼≫

追加型投信／国内／株式

当初設定日　：　2000年6月30日
作成基準日　：　2026年10月30日

委託会社・その他の関係法人の概要

■ 委託会社　三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社（ファンドの運用の指図を行う者）
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第347号
加　入　協　会　：　一般社団法人資産運用業協会
ホームページ　：　https://www.smtam.jp/
フリーダイヤル　：　0120-668001　受付時間 9:00～17:00 [土日・祝日等は除く]

SMTAM投信関連情報サービス
お客様が指定されたファンドに関する情報（基準価額、レポート）や投資に関するコラム等をLINEでお知らせします。
※LINEご利用設定は、お客様のご判断でお願いします。
※サービスのご利用にあたっては、あらかじめ「SMTAM投信関連情報サービス利用規約」をご確認ください。

■ 受託会社　三井住友信託銀行株式会社（ファンドの財産の保管及び管理を行う者）

販売会社

商号等		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人資産運用業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社イオン銀行（委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第633号	○			
株式会社SBI新生銀行（委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券）※1	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行（委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）※1	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○		○	
株式会社三井住友銀行（委託金融商品取引業者 SMBC日興証券株式会社）※2	登録金融機関	関東財務局長（登金）第54号	○		○	○
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第649号	○	○	○	
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第67号	○	○		
SMBC日興証券株式会社 ※2	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○	○	○	○
岡三証券株式会社 ※2	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第53号	○	○	○	○
立花証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第110号	○			
東洋証券株式会社 ※3	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第121号	○			○
内藤証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長（金商）第24号	○			○
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○
みずほ証券株式会社 ※4	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第94号	○	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○
むさし証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第105号	○			○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○
リテラ・クレア証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第199号	○			

※1　ネット専用のお取り扱いとなります。
※2　換金のみの受付となります。
※3　2018年2月1日以降、新規買付けを停止しております。
※4　2014年8月1日以降、新規の買付けを停止しており、換金のみの受付となります。
・お申込み、投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は、販売会社へお申し出ください。
・販売会社は今後変更となる場合があります。

＜本資料のお取扱いにおけるご留意点＞を必ずお読みください。